

ふう けい き こう
風景紀行
古城山
 71
 岐阜森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

古城山風景林

「岐阜署」岐阜県の南西部、濃尾平野の北端部に位置する美濃市に、この山が所在する古城山国有林があります。

美濃市といえ古くは長良川の舟運の集積地として、また美濃和紙の産地として栄えてきたところで、国の重要伝統的建造物群保存地域区の選定を受けた卯建(うだつ)の上がる町並が有名な「和紙とうだつのまち」です。

そんな市の中央部に位置する国有林は、面積二〇八㌫の大部分がヒノキやスギを主体とした人工林になっていますが、標高四三七㌫の古城山は登山道からの眺望に優れていることから、年間一万人を超える人々が登山に訪れ、昭和五十年四月から古城山風景林(七二㌫)に設定されています。

もともとこの山は古名を鈍尾(なたお)山といい、戦国時代から中濃を制覇していた佐藤氏三代の居城でしたが、三

代目の佐藤才次郎方政は関ヶ原の合戦で石田三成方について敗れ、滅亡してしまいました。

現在も山頂には本丸跡があり、四方釣り壁の要塞であったと伝えられる本丸の石垣は半ば埋もれながらも残っています。また、北尾根には数段の曲輪跡が見られ、本丸の東には食料倉庫等が並んでいたという帯曲輪(おびくるわ)跡の細長い平地もあります。

本丸から南には三つの曲輪跡があり、その先にある石垣の大手曲輪跡は登山時に気がつかないほど崩れています。どの曲輪も塀や柵をめぐらした立派な山城であったと思われる、戦国時代を垣間見ることが出来ます。

登山道は市、市民、署、ボランティア団体により軽装で気軽に登れるよう整備されており、麓には森林県岐阜に相応しい「岐阜県立森林文化アカデミー」や「岐阜県森林科学研究所」もあり、森林・林業に関わる勉強、試験研究の場にもなっています。

◆アクセス方法

○マイカー

- ・東海北陸自動車道・美濃インターチェンジ↓国道一五六号線を北上↓曾代(そだい) 交差点を西↓美濃市運動公園(駐車場)

○公共交通機関

- ・長良川鉄道梅山駅下車↓徒歩三十分↓美濃市運動公園



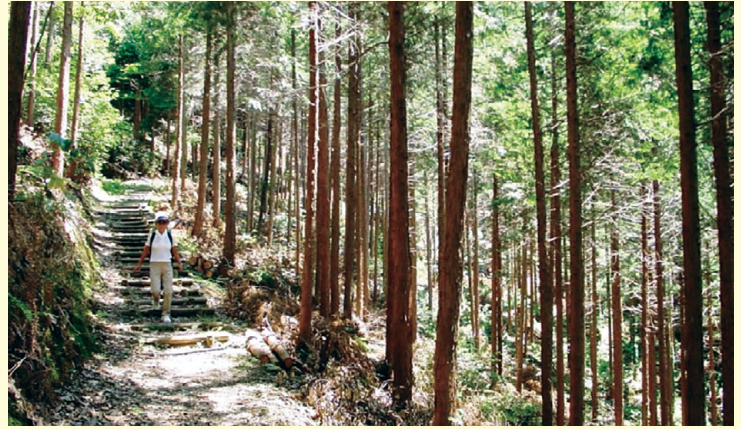
山頂から市街地を望む



古城山



東屋で一休み



整備されている登山道